



H7N9の現状とこれからの予測（平成25年4月8日現在） 感染制御部

H7N9鳥インフルエンザはA型、B型？

2009年に流行した豚インフルエンザ（2009pdm H1N1）や高病原性鳥インフルエンザH5N1などと同じA型です。

A型インフルエンザはどのような動物が持っているの？

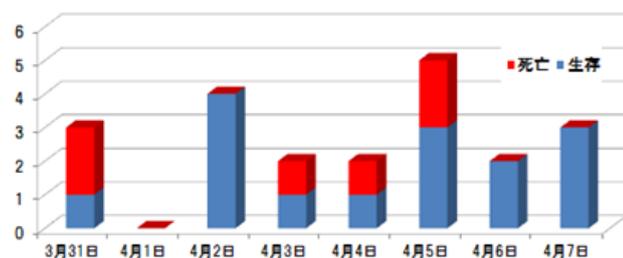


A型インフルエンザウイルスはヒトのほか、ニワトリ、カモなどの鳥類、ウマ、ブタなどの哺乳類にも感染する宿主域の広いウイルスです。中でも鳥類とくにカモからはA型インフルエンザウイルスのすべての亜型が分離されています。ヒトからはこれまでH1N1、H2N2、H3N2の3種の亜型が分離されています。これらの遺伝子解析により、A型インフルエンザは野生の鳥類にその起源があると考えられています。

H7N9の特徴は？

高病原性鳥インフルエンザH5N1と比べて、際立った特徴は、鳥に対して病原性が低いということです。H5N1は鳥に感染すると、致死率になるため、感染が起こったことに気付くことが多く、対処がなされ易いのですが、H7N9は、鳥に感染しても気付かれず、その鳥（silent spreader）と接触したヒトが感染してしまうことです。

H7N9の病原性は？



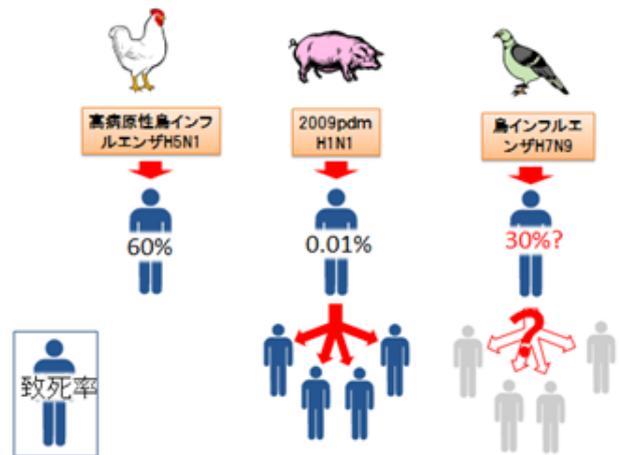
中国におけるH7N9インフルエンザの発生状況

致死率（感染した人のうち何%の患者さんが亡くなるか）2%を超えると高病原性と判断されます。高病原性鳥インフルエンザH5N1は致死率60%であ

り、季節性のインフルエンザは0.1%程度です。現在までのところ、H7N9インフルエンザでは、24名の患者さんがみつかっており、7名が亡くなっていますので、致死率29%となり、高い病原性である可能性があります。ただし、本当に感染している人の数がわかりませんので、真の致死率などはわかりません。

今回中国で発見されたH7N9インフルエンザは新型インフルエンザではないの？

今回のインフルエンザA(H7N9)は、鳥のインフル



エンザが変異を起こし、ヒトにも感染することができるようになったもので、この鳥インフルエンザが、ヒト-ヒト感染を高率に起こし、かつこれまで人類が経験したことのない型のインフルエンザの場合「新型インフルエンザ」と定義されます。

現在H7N9は、新型インフルエンザの条件であるヒト-ヒト感染が高率に起こっているという事実が確認されていないので新型インフルエンザとは言えません。

これからどうなる？

「ヒト-ヒト感染を起こせるかどうか?」、「タミフルは効くのか?」の2点が重要です。

まず「ヒト-ヒト感染を起こせるかどうか?」については、危険な状態といえます。それは、「ヒトの鼻やのど、それに気道などの細胞で増えやすくなっている」という国立感染研の報告があるからです。この性格は高病原性鳥インフルエンザH5N1とは異なる性格で、ヒト-ヒト感染の条件をクリアします。

次に「タミフルは効くのか?」についてですが、幸いなことにWHOの報告によれば、タミフルやリレンザなどの既存の抗インフルエンザ薬は効果があるようです。万が一パンデミックになっても、早期の抗インフルエンザ薬の投与が可能な日本の医療体制下では、被害を少なくすることができると確信しています。ワクチンは開発されても接種できるようになるのは6か月先です。